

令和5年度(2023年) 《第13号》

# 貞香会 会報



**2023 TEIKOKAI Annual Report**

# 辰年雑感



会長 赤平泰処

令和六年は、干支<sup>えと</sup>でいえば甲辰（きのえたつ）の年です。甲辰は書作品の落款によく使われます。最近では西暦・元号で呼ぶことが多くなり、干支も少し古いのかと思つたりしますが、動物にたとえて年や人の性格などを占うことは多いようで、不思議に納得したりして、楽しみ親しむこともあります。

「辰」の字は、動物では「竜」にあて、どちらも縁起の良い文字です。「辰」はおおはまぐりの形で、振・娠・娠・震などの字があり、いずれも「ふるえる」「動き出す」「伸びる」など共通の意味があります。また、「辰」は時刻でいえば、午前八時から二時間ほどで太陽が高く昇る時のことです。

「竜」は架空の動物ですが、人間社会とは強い繋がりがあり、いろいろな伝説や祭事に登場し、なかなかのご利益があるようです。旧字体の「龍」は、左半分が頭の形で右半分は胴体をくねらせている形です。書作の時などは、何となく力が入り、筆勢をつけて表現したくなる文字です。また、

中国では天子の象徴といわれ、天子の衣服から持ち物全般に竜が描かれているのを見ると、どんな動物か想像できます。

王羲之の書は、「竜天門<sup>りゅうてん</sup>に跳り、虎鳳闕<sup>とらほうけつ</sup>に臥す<sup>ふ</sup>」といわれ、筆力が勁<sup>つよ</sup>く、氣勢が雄偉だと絶賛されています。また、諸葛孔明は「臥龍」なり、隸書・飛白体をよくしたという蔡邕は「醉龍」などと称されています。変化窮まりない雄健な書は「龍驤豹変」といい、「龍翰鳳翼」は優れた人材のこと、「画龍点睛」「登竜門」などの語もあります。

さて、私達書を学ぶ者としては、龍門造像記、張猛龍碑をじっくりと学ぶことが今年の課題でしょうか。瑞兆のいい例に「虹」があります。虹の字は竜が首をのばして黄河の水を飲む形の字だといわれています。虹を見つけた時の嬉しさは誰もが童心にかえるひとときで、人に伝えたくなくなる瞬間です。

貞香会も辰年に因んで何か瑞兆が現れないかと願うのですが、良い事は待つていても来ません。自らの精進努力によつて呼びこむことです。「竜」になれ。虹を見よう。「マンネリ化した書作態度を改めて、辰年に相応しい伸びやかで雄偉な書を次回展にはご出品ください。」

# 今後の貞香会の進む道に思うこと



理事長 光谷素仙

第57回貞香書展で、毎日新聞社記者の桐山正寿氏が「書の世界」のコラムに、「貞香会創設者・中村素堂の掲げた硬質の書、新文人主義、仏教という揺るぎない理念が、今後どのような現代的な達成へと向かうのか、興味は尽きない。」と述べている。

そしてまた、貞香書展の懇親会で貞香会参与の松本宜響先生が、NHK朝ドラ「らんまん」のドラマに出てきた桜の接ぎ木にたとえて、貞香会がどのように進むのかと投げかけられた。(木がまっすぐ伸びるのか、横に小枝が伸びるのか?)まさに貞香会の今後の行き先、期待あるいは危惧していることと思うが、木がまっすぐ大きく育ち、会が更に底力をつけそれを発揮するには如何にしたら良いか? 幹部・理事会が進むべき方向を示唆し、会員と共に綿密に検討しながら、他の書道会から抜き出るために新しいことに挑戦せねばならない。

先日猛暑の中、第74回毎日書道展を観覧すると、今年最高齢の入賞者が92歳で3人いらしたとのこと。書の道はいくつになっても終わりがなく、常に新しいことに挑戦する意欲が必要である。

神奈川毎日書道の「かながわ書道まつり」では、中高校生の書道パフォーマンス

マンスが盛んで、多くの参加希望校の中から選ばれた学校の生徒たちが参加し、毎年競い合っている。書道会の発展には、やはり将来を託す「若い力」と学校との連携が必要であると思うが、現在の貞香会にはそれが不足している。毎年、多くの書道会で全国学生書道展が併催され、独立選抜書展で開催される全国高校大作書道展では、全国の高校40校から180点以上の作品応募があり、いつも感動と共に羨望の的である。

日本の「書道」が登録無形文化財に登録されたのは喜ばしいことであるが、その伝統を受け継ぐべく若い人たちを育てていかなければならないのに、現在はその状況下にないと感じている。若い人たちに書道パフォーマンスや書道に親しんでもらう企画を打ち出し、「書」を楽しむ人たちが少しでも増えることを願っている。我が貞香会においては、まず現行の総合書展で開催する書範展(学生部)をより充実したものにする対策が必要であると思う。

令和5年9月23日に、広島県熊野町で開催された筆まつりで、赤平泰処会長が席上揮毫を行い、碑建立の式典に参列するために、有志で2泊3日の広島熊野旅行を催行した。また、東方書道院主催で、10月30日から31日まで中尊寺等をめぐる東北旅行が実施された。貞香会としても、親睦、錬成会・臨書会等の勉強会を兼ねた湯河原温泉旅行を予定していたがコロナ禍により中止になった経緯もあり、今後ぜひ実施していきたいと考えている。

百周年を迎えた貞香会の今後の発展に、会員皆様一人一人のご協力を切にお願い申し上げます。

# 令和五(二〇二三)年度 貞香会総会報告

令和五年度定期総会が、一月二十五日(水)午後三時から、東京都美術館講堂において執り行われた。

鈴木蓮徑理事が司会進行をつとめ、光谷素仙理事長より開会の挨拶があり、総会が開始された。

赤平泰処会長より、「昨年、創立一〇〇年記念展が開催でき、中村素堂先生の作品に触れ、改めて創作の力を見つめ直してほしい。同じような作品の繰り返しではなく、一作一作期待に応えるよう、人の心を打つ新鮮な作品を発表してほしい。また、今年は役員の改選もあり、色々な意味で貞香会も生まれ変わる。皆さんには貞香会にお力添えをいただくようよろしくお願いいたします。」と述べられた。

議題に入る前に、司会の鈴木理事より委任状の報告があり、会員数二二二名のうち、総会出席者二三名、委任状提出者一四三名、合計一六五名となり、したがって総会成立と発表があり、議題に移った。議長には、三浦看山理事が選出され、議事が進行した。

まず、第一号議案の令和四(二〇二二)年度事業報告が根本泰邸事務局長より、第二号議案の令和四(二〇二二)年度決算報告書が高橋珠翠理事より報告され、長尾泰邨監事より、適正な監査を行った旨の報告があり、一括承認された。

次に、第三号議案の令和五・六(二〇二三・二〇二四)年度の役員改選案、第四号議案の令和五(二〇二三)年度事業計画案および第五号議案の令和五(二〇二三)年度会計予算案が、根本事務局長より説明され、一括承認された。議題はすべて承認され、滞りなく審議が終了した。

その他、根本事務局長より、貞香会機関誌『書範』が四月から貞香

会に業務移管することになり、作品の提出方法にバーコードシステムを導入するなどの説明があった。

最後に、坪内雪山副理事長の閉会のことばで締めくくられ、総会が無事に終了し閉会した。

## 【二〇二三・二〇二四年度役員名】

〔顧問〕	荒木大樹	中村素岳	中村青藍	
〔参与〕	大野宜白	奥山泰嶺	後藤鶴台	中谷春径
	書間欽堂	松本宜響	若井香樹	
〔参事〕	柏木南城	加茂泰玄	中村大如	中村東泉
	二木秀蔭	山根紅樹		
〔会長〕	赤平泰処			
〔理事長〕	光谷素仙			
〔副理事長〕	坪内雪山	根本泰邸		
〔事務局長〕	根本泰邸			
〔事務局次長〕	☆飯野彩心	鈴木蓮徑		
〔理事〕	飯野彩心	☆飯野柳袖	今井泰篁	海野蒼秀
	☆加地香泉	☆川島栖園	鈴木蓮徑	坪内雪山
	永井静軒	中村香柯	根本泰邸	浜瀬碧水
	半田桃香	光谷素仙		
〔監事〕	☆大塚澄心	長尾泰邨		
〔評議員〕	秋田谷岱空	石原翠山		
〔事務局員〕	☆海老原綵翎	☆小澤茜逕		

☆新任  
以上



## 錬成会

2023年2月4日(土)・5日(日)、南浦和の鷺毛堂で錬成会が行われた。今年もコロナ禍で、なおかつ十年に一度の大寒波に見舞われたが、老梅の黄色い花がガラス細工のように咲き、暖かく天気にも恵まれ無事に開催できた。

初日の講師・中村素岳先生がお越しになると、待っていたかのように、参加者が次々と毎日書道展や貞香書展の作品制作の相談をしたり、構成のアドバイスや指導をいただきながら、楽しく、また練習に励み、充実した日を過ごすことができた。



お手本を書く中村素岳先生



初日の集合写真



お手本を書く赤平泰処先生

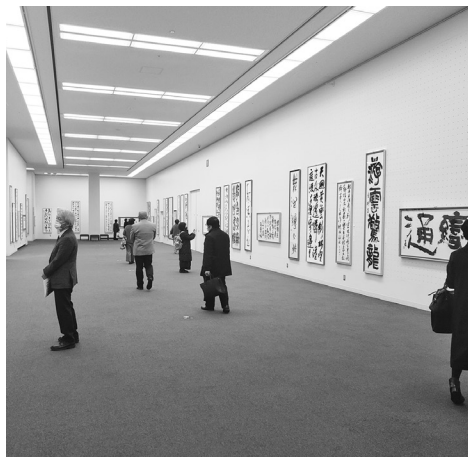


2日目の集合写真

二日目も天候に恵まれ、開場前より参加者たちが続々と集まった。講師・赤平泰処先生と根本泰邱事務局長が到着すると、開講の挨拶を受け、書いてきた作品を吊るして、早速赤平先生より講評をいただいた。お手本書きでは、赤平先生の筆さばきを熱心に見て、また作品に適した筆などのアドバイスを受けていたのが印象的であった。4月には、貞香会主催の毎日書道展の下見会を開催する予定だ。練習の成果を発揮され、皆さんの力作をお待ちしております。

(飯野柳和・飯野彩心記)

'23 貞香会総合書展



会場風景

'23 貞香会総合書展が、1月20日から26日まで、東京都美術館において開催された。

出品は、第一部役員80点、第二部書範展師範部14点、一般部114点、教育部283点、半紙部114点の総計605点。

今年もコロナ禍の影響で授賞式や席上揮毫などのイベントは中止となったが、展示会場が広くなったこともあり、会期中の入場者総数は千人を超え、会場は活気があふれた。

出品されたお子さんと一緒に家族みんなで作品を楽しく鑑賞している光景は、コロナ禍以前の状況に戻りつつあるような明るい印象を受けた展覧会であった。

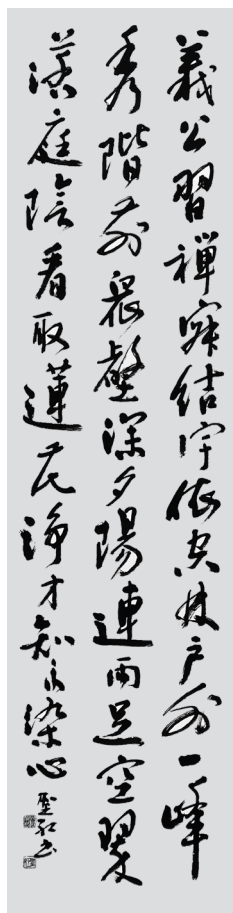
'23 貞香会 総合書展  
 会員展・書範展  
 2023.1.20(金)~26(木)  
 開催時間 9:30~17:30(入場は17:00まで)  
 ※最終日は15:00まで(入場は14:30まで)  
 ※高層階けると異なります。  
 (入場無料)  
 会場：東京都美術館 ロビー・海側2展示室  
 〒110-0007 東京都台東区上野公園3-6  
 電話 03-3823-6921 (代表)  
 主催：貞香会  
 会長 赤平春祐 理事長 光谷美仙  
 後援：毎日新聞社 一財毎日書道会 (社)全日本書道連盟  
当館内、本館の展示室に手帳や封筒を預け、展示中に紛失してしまわれた場合は、お詫言わせてお返しをさせていただきます。お預けの際は、お名前とご連絡先を必ずお書きください。

'23 貞香会総合書展 書範展師範部 (優秀作品)

貞香会会長賞 五喜田幽石



貞香会会長賞 岡 聖紅



◎昇格者

2023年度、規定により左記の方が昇格しました。  
 おめでとうございます。

〔委嘱〕 曾根 濤青

〔会友〕 市村 星華 大河内秀丸 滋野 綾菜 塩濱 花菜

高安 霞芳 奈良田圭亮 福田香朱美 水須 涼華

宮田 霞鶯 山内 俊子 ローゼンフェルド朋子





'23 貞香会総合書展 選抜大作展

2022年度、各書展において輝かしい賞を受賞された方々による  
選抜大作展を併催した。

〔出品者〕

上野 泰僊（第73回毎日書道展 漢字丁類 毎日賞）

浦野 西萌（第56回貞香書展 特別賞・審査会員推挙）

日向野光苑（第56回貞香書展 特別賞・審査会員推挙）



8尺×2尺×4

上野泰僊先生

花隱振垣美秋、棲鳥邊星  
臨芳石動、目倚九雲、鳥小寢

聒垂鑰、因念想、玉柯明、舒育  
對、事教、問、更、為、好、再、衣、時

節、當、去、表、乃、昔、生、隨、念、會、潛  
入、更、潤、物、細、多、都、身、明、行、在、

但、思、江、松、火、獨、明、曉、香、紅、濕  
香、色、重、錦、友、城、  
西萌

8尺×2尺×4

浦野西萌先生

ソリ、上、一、つ、筆、を、白、雲、積、も、る  
一、道、踏、み、た、た、く、誰、か、の、之、取

其、詩、に、遊、び、ゆ、る、て、互、利、た、り、  
草、草、層、成、此、を、取、り、せ、香、い、も、よ、め  
正

8尺×2尺×2

日向野光苑先生

# 第64回東方書展（審査所感）

会期 3月25日（土）～31日（日）  
会場 東京都美術館

第1部（漢字部） 審査員 飯野彩心

東方書展は、読売書法会・毎日書道会・産経国際書会に所属する書道団体および個人が参画する歴史と伝統のある書道展で、本年はコロナ禍が少しずつ収まりつつある中、64回展が開催された。出品点数は、同人296点、準同人115点、一般公募240点、昨年より24点減の総数651点であった。特別賞・同人推挙選考に中村素岳先生・赤平泰処先生・中村青藍先生、公募第1部審査に後上菁華先生・飯野彩心、公募第3部に石原翠山先生、公募第4部に山根紅樹先生が審査を担当した。

当会では、同人推挙に近藤朗詠さん、推薦に矢口昌華さん、特選に浦野西萌さん、根布谷翠紅さん、褒状に青木香路さん、北村亭弘さん、中島翠音さんが入賞し、入選された皆様誠にありがとうございます。

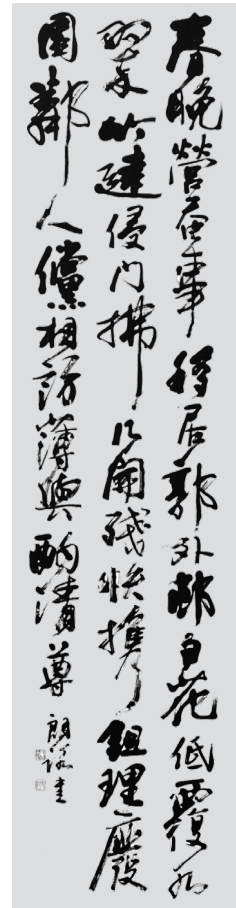
筆者担当の公募第1部審査について、若干の所感を申し上げます。公募出品点数240点のうち漢字部作品は80点、入賞率は約30%でした。まず一次審査で鑑別が行われ、入賞候補が選出される。続いて投票による入賞審査。入賞作品は3行の行草や隸書作品が多かったが、リズムよく流れのある作品が評価を受けた。次回展は、更に線を熟練させて、全体的にまとまりのある作品を目指し、早くから書き込み作品をまとめられると良いかと感じました。

先日、WBCで日本が世界一に輝きました。これは、日本のプロ野球選手達が日本を越えて、メジャーリーグで世界中のレベルの高い選手達と競い、相当の実力をつけたことが大きな勝因の一つと言えるでしょう。

中村素堂先生は、書道も対外試合をしなければいけないと言われていたそうです。皆様におかれましても、貞香会のみならず大きな書道展の舞台で研鑽を重ねられ、更なるご活躍とご健筆を期待いたします。

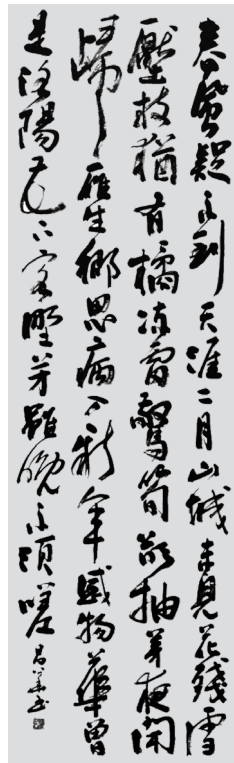
# 第64回東方書展（優秀作品）

同人推挙 近藤 朗詠



運筆の技と墨量の変化が適度に調和した作。これからは、古典の学習を通して多彩で豊かな表現の作を。  
(会長評)

第一部 推薦 矢口 昌華



推薦は立派。真の実力をつけるには、目を耕し、引き締まった、強い造形で書き込むことです。  
(会長評)

## ◎第64回東方書展 入賞者

同人推挙 近藤 朗詠

第一部 推薦 矢口 昌華

特選 浦野 西萌 根布谷翠紅

褒状 青木 香路 北村 亭弘 中島 翠音

## ◎昇格者

第64回東方書展受賞に伴い、東方書道院の規定において、次回展より昇格になります。おめでとうございます。

「同人」 近藤 朗詠

「準同人」 矢口 昌華 浦野 西萌



## 第64回東方書展

### 《ダイジェスト》

#### ◎「同人推挙」受賞作品解説

3月25日(土) 11時過ぎより、展示場内にて受賞作品解説が開催された。尾崎學先生が漢字部を解説され、作品作りに何より大切なのは気持ち豊かに楽しく書くことだとユーモアを交えてのトークにギャラリィは引き込まれた。受賞した近藤朗詠さんの作品について「ゆつくり筆を進め、一行そして二行目上に重きを置き、そこから下に流す行草の基本を捉え、名前のようにに朗らかな作品」と近藤さんを笑顔で賞賛し、会場は祝福の拍手で溢れていた。



作品の前で受賞した近藤朗詠さん

#### ◎席上揮毫



席上揮毫の光谷素仙先生

3月25日(土) 14時より、展示場内にて選抜6名の先生方による席上揮毫が行われ、貞香会より光谷素仙理事長が披露された。光谷先生は挨拶に先立ち「今回使用するのは和墨で、雲と竜のように生き生きとした作品を表現したい」と述べられ、行草にて「游雲驚竜」の4文字を力強く揮毫された。先生方のそれぞれ見事なパフォーマンスに歓声と拍手が会場に鳴り響いた。

#### ◎授賞式・懇親会

3月26日(日) 11時より、東京都美術館講堂にて授賞式が開催された。授賞式後に貞香会受賞者の記念撮影を行い、喜びに満ちた笑顔が印象的であった。同日の17時より、美術館内レストラン『ミュージズ』にて懇親会がにぎやかに開催され、受賞者を祝福した。



貞香会受賞者のみなさん



懇親会で挨拶される赤平泰処先生

#### ◎企画展示解説と選抜展作品解説

3月26日(日) 14時より、展示会場にて企画展示と選抜展の作品解説が行われた。企画展示は、中国の明清代書家の扇面作品がガラスケースに陳列され、所蔵者の谷村雋堂先生(東方書道院理事)による

作品解説があった。

選抜展では、光谷素仙先生が自身の作品について、岑参の詩が好きで今回も作品の題材に選び、また強い横画を心掛け、使用した墨・紙・筆などの解説をされた。



席上揮毫の光谷素仙先生

第64回東方書展 《ダイジエスト》

◎企画展示「東方書道院選抜展」

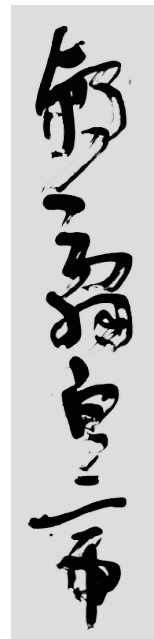
東方書道院理事11名と今年度選抜された6名の先生方が大作作品を発表された。

貞香会より赤平泰処先生、中村青藍先生、光谷素仙先生が出品された。



6尺×3尺×4

赤平泰処先生



中村青藍先生

10尺×2尺×6



光谷素仙先生

8尺×2尺×6

# 第57回 貞香書展

会期 6月28日(水)～7月10日(月)  
会場 国立新美術館

## ◎特別賞・推薦 審査講評

荒木 大樹

これからの貞香会を会員、委嘱の作品を楽しむに拝見致しました。審査員三名の挙手をもって決定しますが、残念ながらたくさんさんの作品は選定されませんでした。

特別賞の二人の作品は線質がしつかりしており、いい呼吸感で無難にまとめられておりました。今後どのように作品の幅を広げられるか一層勉強を続けることを期待しております。

推薦の行草作品は幅三尺を利用して横への動きもありながら行間を取り、かなの臨書作品はこれだけの量を丁寧にかかれていた大変な努力に感服致しました。

全体を見て残念に思ったことは、作品として訴える力が不足しているようです。どのような作品を書きたいのか、意図するところがはっきりしていないのです。次に気脈が貫通していない作品も多く、作品に対する執心が不足していました。大切なのは常日頃の勉強で臨書が基本であることは言うまでもありません。そして他人の技術を勉強するには、いろいろな展覧会を見学してみることです。自分が書いてみたいと思う作品を探してみましよう。

(後半は先師「書作への道」よりの引用にさせて頂きました)

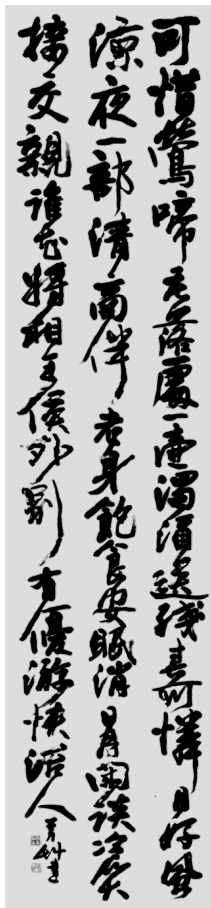


荒木大樹先生

# 第57回貞香書展 (優秀作品)

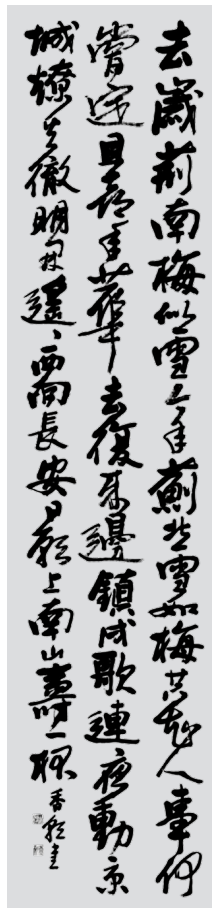
## 特別賞・審査会員推挙

鈴木芳草



## 特別賞・審査会員推挙

山崎香彩



# 第57回貞香書展受賞者

## 特別賞・審査会員推挙

鈴木 芳草  
今井 文子

山崎 香彩  
峯岸 妙観

## 推薦・会員推挙

公募1部

## 特別賞

原美鈴  
照雄  
智香  
玲紅  
聖香  
瑣葉  
敬心  
夢凜

奥備愛  
小山真裕美  
小山真裕香  
海老原綾香  
大木原耶々  
松野珠芳  
豊田澄水  
上野瑞空  
松本心優  
千尋

佐藤穂徑  
中村泰子  
上野優羽  
伊藤ゆうか  
内山富美  
福田美綾  
大嶋朱美  
泉田香朱  
古口碧

塩濱花菜  
村山順亮  
奈良田圭亮  
滋野綾菜  
谷田貝美  
吉村幸子  
大河内秀丸  
大塚可南子

## 特別賞

山中美理  
市村星華  
山口和彦  
高橋英美子  
梅澤恵子  
戸崎勝彦  
石井佳奈芽

山内俊理  
角田真子  
池上智子  
瀧澤理子  
吉岡紀子  
中村玲香

遠藤真佐美  
川口杏苑  
芳田晏奈  
井上かれん  
ローゼンフェル  
下朋子

萩原 柊  
山内 節子  
齋藤 開

## 公募2部

## 特別賞

山中美理  
市村星華  
山口和彦  
高橋英美子  
梅澤恵子  
戸崎勝彦  
石井佳奈芽

山内俊理  
角田真子  
池上智子  
瀧澤理子  
吉岡紀子  
中村玲香

遠藤真佐美  
川口杏苑  
芳田晏奈  
井上かれん  
ローゼンフェル  
下朋子

萩原 柊  
山内 節子  
齋藤 開

## 高校生奨励賞

石井佳奈芽

中村玲香

ローゼンフェル  
下朋子

齋藤 開



## 第57回貞香書展 《ダイジェスト》

### ◎特別展示…中村素堂先生遺墨展



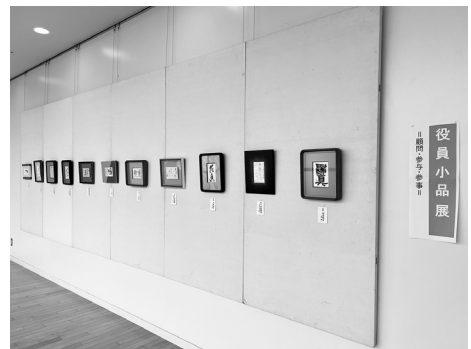
遺墨 中村素堂先生

第57回貞香書展特別展示として、中村素堂先生の代表作の一つである「認驢作馬」(永井静軒理事所蔵)が展示された。

7月1日(土) 14時より展示場にて、荒木大樹顧問による素堂先生の遺墨作品の解説が行われた。荒木先生が事前に用意された資料により、「四文字大小の大胆さ、潤滑と多い渴筆の変化、全紙二枚に対し気脈の貫通、本文と落款・印の位置のバランス」などといった作品の見どころを、丁寧に解説された。素堂先生の作品をなつかしむ方、見事な筆遣いに惹きつけられる方など、素堂先生の作品は多くの人を魅了した。

### ◎役員小品展併催

本年は、顧問・参与・参事の先生方の小作品が、展示休憩室に飾られた。篆書、隸書、仮名など多彩な作品は、墨の濃淡や料紙などの工夫が施され、色とりどりの額に展示され、来場者の眼を楽しませた。



役員小作品展

### ◎中村素堂先生と植物学者 牧野富太郎博士の話

二〇二三年春から放送されたNHK連続テレビ小説『らんまん』をご覧になっただろうか。主人公のモデルは、高知市出身の植物学者で「日本の植物学の父」といわれる牧野富太郎博士である。愛する植物のために一途に情熱的に突き進んだ博士の波乱万丈の生涯を描いたドラマだ。中村素堂先生も蘭や高山植物を愛するほどの植物好きで、牧野博士と交流があった。東京銀座千疋屋のご主人に紹介していただき、牧野博士を囲む東京山草会の会員となり、毎月研究会にも出席するほどであった。素堂先生のご子息が入学試験用に立ち寄った「マキノ写真館」が牧野博士のご長男が経営していた写真館であり、同じ練馬の地に住まわれていたのも何か深いご縁があった。素堂先生は書や歌の知見だけでなく、あらゆることに精通し、研究者や文人墨客との幅広い交友を深めていることを改めて認識した。

※詳細は『筆間雑記』中村素堂随筆集(昭和六十三年刊)掲載をご一読ください。

### ◎ギャラリートーク



受賞者の作品解説を行う荒木大樹先生

7月1日(土)、中村素堂先生の遺墨作品解説のあと、引き続き荒木大樹顧問による受賞者の作品解説が行われた。大勢のギャラリーが集まり、まず「特別賞・審査会員推挙」を受賞した鈴木芳草さん、山崎香彩さんの作品について「気迫に満ち、線が紙にくい込んでいて、行間の美しい作品だ」と講評をされ、受賞に至った経緯を解説された。また、参加した受賞者と質疑応答を交えながらトークがはずみ、1時間があっという間に過ぎた。

# 第57回貞香書展 《ダイジェスト》

## ◎授賞式



7月1日(土) 11時より、美術館講堂にて授賞式が執り行われた。赤平泰処会長より挨拶があり、光谷素仙理事長からそれぞれ審査講評、激励の言葉がおくられ、賞状が授与された。壇上で記念撮影を行ない、受賞者の方々の笑顔が印象的であった。



## ◎懇親会

7月1日(土) 18時より、銀座サンミ高松本店にて懇親会が行われた。司会者より出席した受賞者にインタビューをし、皆さんがうれしそうに喜びのコメントすると、祝福の拍手が沸いた。恒例の抽選会では、大いに盛り上がり、楽しいひと時を過ごした。



受賞者挨拶の様子

## ◎講演会

7月7日(金) 11時より、美術館講堂にて、特別講演会を開催した。講師に小川博章先生(淑徳大学人文学部教授)をお招きし、演題の「全形拓本の様相」についてご講演を賜った。全形拓とは、文字だけでなく器形を立体的に採拓したもので、貴重な資料もたくさんお持ちいただき、鑑賞することができた。大変有意義な講演会であった。

講演会の様子

## ◎席上揮毫

7月7日(金) 14時より、美術館講堂にて、松本宜響参与・永井静軒理事・加地香泉理事による席上揮毫が行われた。先生方の見事な書道パフォーマンスと、揮毫後の作品制作の意図や秘話は、大勢の観覧者を惹きつけ好評を博した。



松本宜響先生



永井静軒先生



加地香泉先生

## ◎昇格者

第57回貞香書展受賞に伴い、本会の規定において次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。

審査会員	鈴木 芳草	山崎 香彩
委員	今井 文子	峯岸 妙観
嘱友	浅野 照雄	岡 聖紅
会友	奈良田有亮	塩濱 花菜
	荒井 翔雲	村山 順子
	小山 綾香	内山 富美
	瀧澤 理子	滋野 彩菜
	萩原 柊花	仲野 好重
	山内 俊子	福田香朱美
	ローゼンフェルド朋子	吉岡 紀子
		奥備 愛
		佐藤 穂徑
		渡辺 陽奈
		水須 涼華
		宮田 霞鳳
		奈良田圭亮
		高木 春嶺
		根本 悠彩
		大内秀丸
		高安 霞芳
		大河内秀丸



# 第74回 毎日書道展

7月12日(水)～8月6日(日)  
於・国立新美術館・東京都美術館

## 審査報告

漢字部Ⅰ類 当番審査員 根本 泰 邸

新型コロナウイルス感染症の影響を三年間ほど受けていた毎日書道展、本年度は、表彰式後の全体祝賀会が実施されない以外は、大体コロナ以前の状態に戻った形で開催されました。

本年度の漢字部出品数は、公募Ⅰ類二八一(五一)、Ⅱ類四五二(三九)、会友Ⅰ類一四一一(三四)、Ⅱ類九八〇(五)、U23Ⅰ類三一七(二〇)、Ⅱ類四九八(八)でした。漢字部全体で一〇二作品の出品減でした。

※(一)内の数値は貞香会関係の出品数です。本年度は、昨年より四作品減の一二九作品が出品されました。

審査は、これらの作品を五月の鑑別審査…公募作品を選、落選に選別するマクリ(表装なし)で行う審査、六月の入賞審査…入選した公募作品の内、特に優秀な作品と会友作品の中から入賞作品を決める額装(アクリルなし)で行う審査と、二段階に分けて行われました。一ラウンド二〇分で二五〇ほどの作品を審査します。貞香会関係の作品は、一ラウンドに四〜五作品。集中力を継続するのは想像以上に大変なことでした。

さて、一作品の評価が五秒に満たない時間で下されていく中で、貞香会関係の作品の審査結果は、残念ながら芳しいものではありませんでした。良い評価が得られている作品は、「墨量があり、白と黒のコントラストが美しい作品」「充分な書き込みにより、よどみのない運筆で書かれた作品」でありました。

貞香会では、練成会を実施しています。会員相互、研鑽を重ねて次回展に備えていきたいと思います。

# 第74回 毎日書道展 受賞者・入選者一覽

## 【受賞者】

### 漢字部Ⅰ類

毎日賞 岩崎 芳穂  
秀作賞 江藤 静蘭  
佳作賞 倉石 芳園  
U23奨励賞 奥備 愛  
漢字部Ⅱ類 龜和田郁芳  
佳作賞

## 【入選者】

### 会友 漢字部Ⅰ類

石原 翠山 海野 杏徑 江原 覺堂 大石 碧堂  
大島 翠玲 小澤 茜逕 北井 杏伶 下川 翠雨  
鈴木 芳草 鈴木 玲香 高木 素近 高橋 桂杣  
高橋 柳瑛 武内 陽華 富田 希 中田 翠苑  
永井 静軒 長尾 貫清 林 澄翠 樋口 泰仙  
二木 秀蔭 保坂 登志 細田 香瑤 矢口 昌華  
山崎 香彩 渡辺 蒼秀 渡辺 蘇心 渡邊 萌苑

### 会友 漢字部Ⅱ類

### 会友 公募 漢字部Ⅱ類

市川 賀雪 稲田 珪堂 清水 天悠 和田 芳華  
小澤 茜逕 鈴木 芳草 鈴木 玲香 武内 陽華  
中田 翠苑 樋口 泰仙 平澤 大廣

### 公募 漢字部Ⅰ類

青木 香露 浅野 照雄 荒井 翔雲 池ヶ谷 慧香  
伊藤 ゆうか 上坂 木蘭 浦野 西萌 岡 聖紅  
金子 多恵子 草間 篁山 小山 綾香 近藤 朗詠  
佐藤 穂徑 関根 熙雲 高木 春嶺 田口 和美  
田辺 由美 壺井 翠櫻 中島 翠音 中東 敬子  
長瀬 亮一 長畑 裕子 根布谷 翠紅 福田 柳嶽  
邊見 珠鳳 星野 玲香 松 下 彩虹 峯岸 妙觀  
村山 順子 森 梅蓉 湯川 桃彩

### 公募 漢字部Ⅱ類

塩野 洋子 鈴木 英男

### U23 漢字部Ⅰ類

上野 心優 賈 宇彤 海老原 耶々 北畠 妃恵  
塩濱 花菜 滋野 綾菜 奈良田 圭亮 奈良田 有亮  
福田 香朱美 渡邊 陽奈

# 第74回毎日書道展

## 《ダイジェスト》

### ◎表彰式



審査報告する赤平先生

2023年7月23日(日)午後1時より、第74回毎日書道展の表彰式がザ・プリンスパークタワー東京にて執り行われた。全ての受賞者が参列できる表彰式としては、4年ぶりとなる。また、ライブ配信でも華やかなその模様が映し出された。

赤平泰処先生は、今年度毎日書道展の審査部長を務め、表彰式において審査報告と、賞状授与のプレゼンターとして、壇上に立たれた。

授賞式終了後は、赤平泰処先生と漢字部I類審査を担当された根本泰邱先生と、貞香会受賞者の皆さんで記念撮影を行った。

受賞された皆様、誠におめでとうございます。

来年は、第75回記念の毎日書道展となります。どなたでも出品できます。皆様の日頃研鑽された作品をぜひご発表ください。



毎日賞受賞の岩崎秀穂さん



受賞者のみなさん

### ◎第74回毎日書道展役員

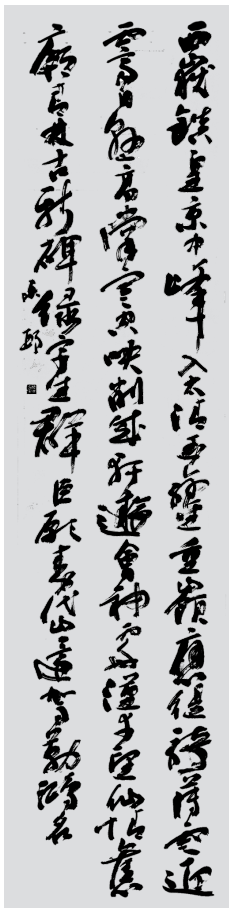
- 理事・審査部長…赤平泰処
- 参与会員…中村素岳
- 漢字部I類当番審査員…根本泰邱
- 総務部委員…高橋珠翠 大塚澄心 加地香泉 今井泰篁 川島栖園
- 審査部委員…鈴木蓮徑
- 陳列部委員…根本泰邱(副部長) 飯野柳菘



毎日書道展審査部長 赤平泰処先生



毎日書道展参与会員 中村素岳先生



漢字部I類当番審査員 根本泰邱先生

第74回 毎日書道展 (優秀作品)

■漢字部Ⅰ類

〔毎日賞〕 岩崎 芳穂  
 偶爾逢時雨 延生過井欄 託根子在  
 石為性不知 寒古洞封長 滿陰崖濕  
 未乾是誰 留屐印幽處 又盤桓

〔秀作賞〕 江藤 静蘭  
 空山新雨後 天寒晚來秋 明月松間  
 照清溪 石上流 林暝歸鳥盡 子  
 漁舟隨意轉 芳歌互答 王孫自可留

〔秀作賞〕 平澤 大廣  
 明月古秋白 愁人獨坐看 秋得与運舟  
 新與肩俱圓 森澄法輝 若會於  
 承 廣 大 廣

〔秀作賞〕 横張 瑞泉  
 歌倚城南西 尺開粵舞 思若漫平  
 臺對色催殘 照近躬 砧聲早 寒  
 正當搖落 誰與相 同把酒 看  
 堅今宵月 誰與相 同把酒 看

〔佳作賞〕 倉石 芳園  
 中歲頗好道 晚家南山陲 興來每獨  
 往 勝事空自疑 行到水窮處 坐見  
 雲起時 偶值林叟 談笑無還期

〔佳作賞〕 浜瀬 碧水  
 明月幾時有 把酒問青天 不知天上  
 宮闕今夕是 何年 我欲乘風歸去  
 又恐瓊樓玉宇 高處不勝寒

〔佳作賞〕 光田 秀穂  
 古也之楊 月夜 芳 多 智 又 也 錦 口 其 且 矣  
 主 地 玉 墨 漢 之 文 之 之 極 然 其 終 矣 而 夜 露  
 是 取 後 之 情 以 主 之 詞 初 為 善 師 廣 泉 大

〔U23奨励賞〕 奥備 愛  
 胡馬大宛名 鋒稜瘦骨成 伏批雙耳  
 峻風入四蹄 輕所向無空 闊真堪託  
 死生驍騰有如此 萬里可橫行

■漢字部Ⅱ類

〔佳作賞〕 亀和田 郁芳  
 對線暗杏農  
 川 櫻 也 友 齋

◎昇格者

第74回 毎日書道展 受賞および 毎日書道会の規定に  
 おいて、次の方が昇格されました。

〔会 員〕 亀和田 郁芳

〔会 友〕 近藤 朗詠

※速報

毎日書道会の理事会において、次の方の昇格が承認  
 されました。

〔審査会員〕 奥山 泰嶺

〔会 員〕 石原 翠山

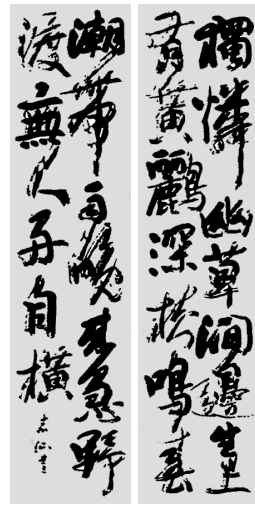








2



3

# 伝統からの一歩

## 第57回貞香書展開催



中村素堂氏が創立、今年で100周年を迎えた。昨年、記念展と併催、大きな話題となった。今回展でも中村氏の遺墨「認驢作馬」を特別展示し書展を盛り上げた。中村素堂氏は「無窮」、中村素岳さんは「碧潭深處有潛龍」、松本直響さんは「學書 孤燈一穗愛間居」、根本泰郎さんは「蒼蒼竹林暮」、鈴木運徑さんは「穠穠滿家」、飯野彩心さんは「黃昏獨立佛堂前」など。伝統の力が発揮され話題の書展と笑顔の赤平さん(左2人目)今年で100周年を迎えた。昨年、記念展と併催、大きな話題となった。今回展でも中村氏の遺墨「認驢作馬」を特別展示し書展を盛り上げた。中村素堂氏は「無窮」、中村素岳さんは「碧潭深處有潛龍」、松本直響さんは「學書 孤燈一穗愛間居」、根本泰郎さんは「蒼蒼竹林暮」、鈴木運徑さんは「穠穠滿家」、飯野彩心さんは「黃昏獨立佛堂前」など。伝統の書を守りながら新たな一歩を踏み出した意欲的な書

全日本美術 2023年(令和5年)9月20日 (10)

### 第57回 貞香書展

6月28日〜7月10日  
国立新美術館

特別展示



認驢作馬 遺墨 中村素堂

貞香会主催。会員140点、公募73点の213点。会創設者中村素堂遺墨「認驢作馬」の屏風作を特別展示。昨年、記念展と併催、大きな話題となった。今回展でも中村氏の遺墨「認驢作馬」を特別展示し書展を盛り上げた。中村素堂氏は「無窮」、中村素岳さんは「碧潭深處有潛龍」、松本直響さんは「學書 孤燈一穗愛間居」、根本泰郎さんは「蒼蒼竹林暮」、鈴木運徑さんは「穠穠滿家」、飯野彩心さんは「黃昏獨立佛堂前」など。伝統の書を守りながら新たな一歩を踏み出した意欲的な書



東書(自作) 参与 松本直響



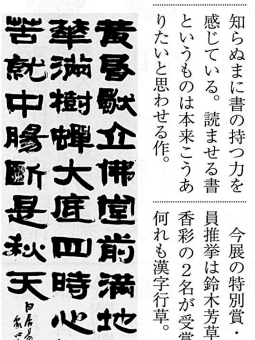
王昌齡詩 事務局長・副理事長 根本泰郎



良寛詩 副理事長 坪内雪山



知らぬまに書の手つ力を 感じている。読ませる書 といふものは本来こうありたいと思わせる作。 何れも漢字行草。(篠原)



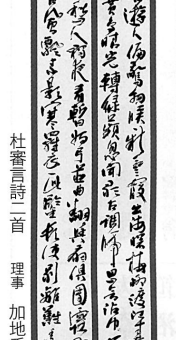
黄唇歌立佛堂前满地槐 華滿樹樺大底四時心縱 苦就中腸斷長秋天



白居易詩 事務局長 飯野彩心



白洲正子のうた(「明恵上人の犬」より) 理事 永井静軒



杜審言詩二首 理事 加地香泉



無窮 顧問 中村青藍



蘇東坡句 顧問 荒木大樹



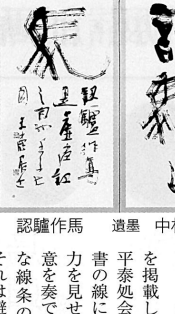
戴叔倫句 顧問 中村素岳



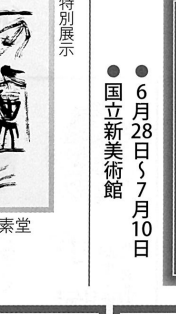
李斯伝 会長 赤平泰規



碧潭深處有潛龍



穠穠滿家



孤燈一穗愛間居



蒼蒼竹林暮



## 洗碑会

令和5年5月2日（火）、天気にも恵まれ、洗碑会が小石川の傳通院で行われた。現在、大河ドラマで放映中の徳川家康公の生母である於大の方を供養するために建立された名刹の寺院である。

今回の洗碑会で、中村素堂先生の貴重な作品を拝見することができた。一つは、荒木大樹顧問が佐藤中処先生ご逝去後、柿木会よりお預かりしていた葉書の作品集である。昭和39（1964）年、素堂先生が仏教三大学仏教研修団副団長として、門弟の佐藤中処先生とインド・タイ・ネパールなどを歴訪し、その旅情を漢詩や歌にして記録したものである。中処先生が帖仕立てにされ、題箋は素堂先生に書いていたかどうかとしたのではないかと推測される。訪れたネパールの写真などもあり、当時の様子が伺うことができた。



中村素堂先生の作品鑑賞

もう一つは、若井香樹参予がお持ちになった素堂先生の扇面作品である。現在の素堂先生が眠る深光寺は、かつて戦争によって梵鐘が供出されてしまったが終戦後に奇跡的に戻り、そのことを祝う落慶式が行われたそうだ。その時の心情を素堂先生が漢詩に詠まれた扇面や、優

麗な仮名の作品など貴重な素堂先生の作品を鑑賞することができた。素堂先生はいつでも筆と硯を持参されていて、その場で筆を執り出し書かれていたと伺った。

定刻となり、今井泰篁理事の進行で洗碑会が始まった。赤平泰処会長の挨拶で「毎年、この中村先生の如是我聞の碑を見ると、気持ち引き

き締め、また今年も新たに頑張ろうという気持ちになる」との想い述べられ、続いて代表者による洗碑の儀式に入った。全員で菩薩願行文を称え読経をし、記念撮影を行い、無事に閉会した。

その後しばらく参加者は、緑生い茂る記念碑の周辺を散策していた。どこかで素堂先生が優しく語りかけているような気がした。

（小澤茜逕記）



参加者による記念撮影

# 〈2023年度事業報告〉

## ■主な展覧会

### ○2023年度定期総会

日時…2023年1月25日(水) 15時～  
会場…東京都美術館講堂

### ○'23貞香会総合書展

会期…2023年1月20日(金)～26日(木)  
会場…東京都美術館

### ○第64回東方書展

会期…2023年3月25日(土)～31日(金)  
会場…東京都美術館  
企画展示…「清朝書畫扇面展」・「東方書道院選抜展」  
※赤平泰処先生・中村青藍先生・光谷素仙先生が出品

### ○第57回貞香書展

会期…2023年6月28日(水)～7月10日(月)  
会場…国立新美術館

### ○第74回毎日書道展 東京展

会場…国立新美術館  
会期…前期展Ⅰ期2023年7月12日(水)～17日(月)  
前期展Ⅱ期2023年7月19日(水)～24日(月)  
後期展Ⅰ期2023年7月26日(水)～31日(月)  
後期展Ⅱ期2023年8月2日(水)～6日(日)  
会場…東京都美術館  
会期…2023年7月19日(水)～24日(月)

## ■洗碑会

日時…2023年5月2日(火) 16時30分～  
会場…傳通院(文京区小石川3-14-6)  
内容…創設者中村素堂先生の記念碑『如是我聞』を洗い清める  
行事

## ■鍊成会

日時…2023年2月4日(土)・5日(日) 9時～17時  
会場…鷺毛堂鍊成会場(さいたま市南区文蔵4-27-3)  
内容…毎日書道展・貞香書展に向けての作品制作

## ■貞香会後援の展覧会

### ○第54回墨光書展

会期…2023年10月6日(金)～10月9日(月)  
会場…春日部市民文化会館

### ○第37回西蓮会書展

会期…2023年10月13日(金)～10月17日(火)  
会場…銀座かねまつホール

※この他、貞香会会員が活躍する展覧会の情報は、貞香会ホームページのインフォメーションにて掲載しています。  
詳しくは、そちらをご覧ください。

# 〈2024年度行事予定〉

## ■主な展覧会

### ○2024年度定期総会

日時：2024年1月24日(水)15時  
会場：東京都美術館講堂  
※会員の方には後日お知らせいたします。

### ○'24貞香会総合書展

会期：2024年  
1月20日(土)～1月26日(金)  
会場：東京都美術館  
授賞式：2024年1月21日(日)  
懇親会：2024年1月21日(日)  
席上揮毫：2024年1月20日(土)  
※後日送付される開催要項で「」確認ください。

### ○第65回東方書展

会期：2024年  
3月25日(月)～3月31日(日)  
会場：東京都美術館  
作品解説  
授賞式  
席上揮毫  
懇親会  
後日郵送される開催要項で「」確認ください。  
東方書道院ホームページ  
[www://tohoshodoujin.com](http://www.tohoshodoujin.com)

### ○第58回貞香書展

会期：2024年  
6月26日(水)～7月8日(月)  
会場：国立新美術館3A  
講演会  
席上揮毫  
ギャラリートーク  
授賞式  
懇親  
後日お知らせします。

### ○第75回毎日書道展 東京展(予定)

会場：国立新美術館  
会期：2024年  
7月10日(水)～8月4日(日)  
会場：東京都美術館  
会期：2024年  
7月18日(木)～7月24日(水)  
表彰式：7月21日(日)13時～  
ザ・プリンスパークタワー東京  
※各地方展、巡回展については、毎日書道会のホームページをご覧ください。  
毎日書道会ホームページ  
<http://www.mainichishodo.org>

### ■下見会(毎日書道展)

日程：2024年4月22日(日)  
会場：文京区男女平等センター(予定)  
※会員の方には後日お知らせいたします。

## ■洗碑会

日時：2024年5月2日(木)  
16時～ 受付  
16時30分～ 洗碑会  
会場：傳通院(文京区小石川3-14-6)  
内容：創設者 中村素堂先生の記念碑「如是我聞」を洗い清める行事  
毎年、中村素堂先生の誕生日に開催しています。どなたでも参加できます。  
ぜひ、「」ご参集ください。

## ■錬成会

日程：2024年  
2月17日(土)・18日(日)  
9時～17時  
会場：鷺毛堂錬成会場  
(〒113-0044 東京都文京区文蔵4-27-3)  
内容：毎日書道展・貞香書展に向けての  
作品制作

## ■貞香会後援の展覧会

○第55回墨光書展  
会期：2024年  
10月17日(木)～10月20日(日)  
会場：春日部市民文化会館

### ○第38回西蓮会書展

会期：2024年  
10月11日(金)～10月15日(火)  
会場：銀座かねまつホール

## 〈事務局だより〉

### ◆ 訃報

室生大韻先生（参与）が、2023年8月15日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### ◆ 年会費について

2023年度以前の年会費が未納の方は、お早めにお振込みをお願いします。

2024年度年会費の振込用紙は、後日お送りいたします。

### ◆ 第58回貞香書展の作品締切

2024年度は、5月13日（月）～5月17日（金）までを予定しています。必ず開催要項をご確認の上、各表具店に作品を搬入してください。締切厳守でお願いします。

### ◆ 住所変更について

住所・連絡先など変更がある方は、貞香会事務所宛に、FAXまたはハガキなどの書面にてお知らせください。

### ◆ 会員の方の関係書道展について

会員の皆さまが活躍する書道展や催しものなどの情報を、貞香会広報部までお寄せください。展覧会の案内ハガキなど詳細をメールにて添付いただければ、貞香会ホームページのインフォメーションに掲載いたします。

Eメールアドレス teikokai.koho@gmail.com（担当：飯野彩心）

### ◆ ご意見・ご要望など

貞香会に関連する展覧会や行事などで、会員の皆さまよりご意見・ご要望などありましたら、貞香会事務所まで書面にてお寄せください。

### ◆ 表紙「墨」…中村素堂先生作品「祭墨」より

#### 【編集後記】

二〇二三年は、会員の皆様のご協力のおかげで、総合書展と貞香書展を開催することができました。貞香会会報第十三号をお届けいたします。今後も会員の皆様のご支援・ご協力を宜しくお願ひ申し上げます。  
〈泰邸〉

＊ 今年の春、長い間『書範』と『会報』でお世話になっていた金子さんと富寿印刷の小室さんが引退された。私達のわがままな編集にも寛大に対応していただき、心から感謝申し上げます。  
また新たな気持ちで『会報』の発行に努力していく所存です。

＊ 皆様からの忌憚のないご意見をお待ちしております。 〈彩心〉  
会報の完成に至るまでには、いろいろな方の支えがあることを痛感しています。関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。  
会報のページには、貞香会のドラマが凝縮されています。

＊ 洗碑会で訪れた素堂先生の石碑「如是我聞」の前に立つと清らかな風を感じました。コロナ禍、自然災害、私たちは今大混乱の時代に突入しましたが、筆をとり墨の香り漂えば自然と心が和らぎ、前向きになりました。 〈茜逕〉

令和五年度（二〇二三年）

### 会報《第十三号》

発行日 令和五年十二月二十二日（日）

編集・発行 貞香会

根本方

東京都江東区新大橋一・五・四・二二一

電話〇三（六二八四）〇四六六

印刷・製本

有限会社エム・ジーケー

栃木県下野市本吉田七六三・八

電話〇二八五（四八）二四六七

